

新潟工業短期大学



実際の設備工場を再現した実習場

「大学で学んだことは、社会に出てから直接役には立たない」。そんなフレーズをよく耳にするが、思いっきり役立ち即戦力として活躍できる大学が、日本海に面した80万都市にあった。建学の精神に「実学一体」を掲げる新潟工業短期大学、通称「工短」である。学ぶのは「自動車」。学科も自動車工業科のみでわかりやすい。2年間で、高水準の自動車工学に関する学理と整備技術を学び尽くす。



エンジン脱着の実習授業

「実際に機械や電子回路に触れているほうが楽しいと感じる学生に、教室で無理に基礎を学ばせても成果は上がりません。まずは好きなことをやってみる。その上で、もっと詳しく知りたくなつて基礎を学び始める。こういう勉強の仕方があってもいいと思います」

と工短の魅力的なカリキュラムを紹介するのは、工短生たちの「親父さん」とも言うべき佐藤孝学長だ。2年



佐藤 孝 学長

前、40年近く奉職した新潟大学を退職すると同時に工短に迎えられた。

キャンパスは、校舎の高層階から佐渡島を臨む絶好のロケーション。実際の整備工場を忠実に再現した実習場には、各メーカーの新車がずらりと並ぶ。車好きにはたまらない光景だ。

工短で学ぶ最大の眼目は、2級整備士資格の取得にある。工学博士をはじめ自動車ディーラー出身の1級整備士など、幅広い経歴の講師陣が全力でそのためのサポートをする。この春の卒業生は35名の留学生も含む、受験者89名の全員合格を成し遂げてくれた。

卒業後さらに、自動車整

教養科目が学べて卒業後は学士になれる大学と、実践的な専門知識と資格が取得できる専門学校がイトコ取り。それが新潟工業短期大学だ。

備士の上級ライセンスである1級整備士をめざす、2年制の専攻科も用意されている。修了者はすべて、1級整備士試験にパスしているというから驚く。

就職サポートもまた手厚い。進路担当の教職員とクラス担任が連携し、個別相談や進路指導を実施。工短生は講義・演習・グループワークなど様々な方法で、自己発見からビジネスマナーまで「働くための能力」を養うことになる。工短生だけの企業説明会も開催される。ディーラーなどから引く手あまたで、就職率は常に100%（※）を誇っている。

佐藤学長が就任以来力を注ぐのは、専門学校と違い学



整備実習は点検作業から始まる

士の学位が授与されるのを生かした、四年制大学への編入だ。希望する学生には編入試験に備えて、学長自ら物理などを教えている。工短には11カ国からやって来た多くの留学生が共に学んでいるが、その中から日本の国立大学への編入を勝ち取った学生も出た。推薦で編入できる大学もすでに確保している。

佐藤学長は全国の高校生にこうメッセージを贈る。「進路に迷っているあなた。少しでも車に興味があったら工短に来ませんか。たくさん人の選択肢、可能性を用意してお待ちしています。女性も大歓迎です」

(大)